



あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM '00 10月号

秋期特別展

街の中の石材 - 地球からの贈り物 -



総合公園の噴水は茨城県産の真壁みかげを利用する

類以上もの石材が使われていることがわかり、近隣のものだけでなく、日本各地あるいは外国のものも多く確認できました。地球からの贈り物であるこれらの石材は、地球の誕生や日本列島の生い立ちを物語っています。今回の特別展では、市域の石材調査や石材収集の成果を基に、身近に見られる石材標本とその利用例を展示し、石材を通して岩石について興味を持ち、地球・日本列島・相模川流域の誕生物語にふれる場としたいと思います。

平塚市博物館 特別展示室

平成12年10月7日(土)～11月19日(日)

期間中金曜日は午後7時まで閉館します

私たちの暮らしの中には様々な石材がいろいろな用途に利用されています。街の中を歩いてみると、ビルの外壁や内装材、住宅地では門柱・石垣・石塀・塀基礎・庭石・飛び石・敷石、社寺の鳥居・狛犬・墓石・石仏、公園のモニュメント・記念碑などいくらかでも石材を見ることができます。こうした石材の利用は、その石の特徴を生かして、古い歴史の中で生活の知恵として生まれ、私たちの生活に不可欠なものとなっています。平塚市域での石材調査の結果、市域には200種



千石河岸に残る房州石を切り出した鋸山の採石場

関連行事

講演会・観察会 「街の石材を調べよう」 10月28日(土) 参加自由

講演会：10時～12時 博物館講堂

観察会：13時～16時 博物館～総合公園(博物館前集合)

野外見学会 「小松石の採石場を訪ねて」

真鶴町の採石場を見学します。

11月4日(土)9時～16時 定員30名(多数の場合は抽選)

申込：10月15日までに氏名・住所・電話・年齢を明記の上、往復葉書で博物館へ。

博物館周辺に見られる石材

博物館の周辺にある石材をみてみましょう。博物館前にある噴水や敷石に使われている石材は、白色・桃色・赤色の粗い結晶からなるみかげ(花崗岩)類です。噴水の石材は茨城県筑波山塊の白い花崗岩です。噴水周りの敷石には、北欧フィンランドやブラジル産の赤色花崗岩と、桃色と白色花崗岩が円形に配置されています。赤色花崗岩は地球で最初の大陸である先カンブリア紀(約10億年以上前)の盾状地を作る岩石で、地球創生期の情報を提供します。桃色花崗岩には一部に、岡山県万成の万成みかげ(白亜紀:約8000万年前)が利用されています。これらの敷石は薄く加工したみかげの端材を角を取り再利用したもので、リサイクルストーンと呼ばれます。

博物館入口横にある「ハイポーズ」像の土台の赤みかげは、ブラジル産のカパオボニートと呼ばれ、上に述べた10億年ほど前の岩石です。教育会館前の宮沢賢治の記念碑には、台座に白い花崗岩が、球状部が黒色のはんれい岩(粗粒の深成岩)が使われています。教育会館南側の歩道には秩父産のチャートと思われる、赤褐色の礫が使われています。

美術館の入口には赤みがかった球状の模様のある花崗岩が多量に用いられています。教育会館の銘板も同じ石材です。この球状花崗岩はラパキビ花崗岩と呼ばれ、フィンランド産のバルチック・ブラウンという石材で、13~17億年前に作られたものです。この球状模様はどのように作られたのでしょうか。よく見ると、球状を呈するのは正長石でその縁を白い斜長石という鉱物が取り巻いています。黒いつぶつぶ(黒雲母)が環状に並んでいるのも見られます。この球状模様の成因については諸説があり、未だ解明されていません。いずれにしても太古の地球で大陸が生まれる過程を物語るものです。

美術館内の柱や内壁には灰白色の石灰岩が使われています。これはイタリア産のトラベルチーノ・ロマーノという石灰岩で、更新世(200万年前以降)に形成されたものです。珊瑚礁を作る石灰岩が崩壊して堆積し形成さ

れたものと言われ、多孔質の縞状をなすこうした石灰岩をトラバーチンと呼びます。

文化公園の南側歩道沿いの置石・西側の新庁舎入口前や機関車前の公園銘板には、岐阜県蛭川村付近の木曽石が数多く使われています。褐色地に白い四角い結晶(正長石)の斑点がよく目立ちます。パイロットの入口の石垣も同じ木曽石です。この木曽石は花崗斑岩という岩石で、みかげ石(花崗岩)の仲間ですが、やや浅所で形成されたもので基質が細粒です。白亜紀後期(約7000万年前)に形成されたもので、苗木花崗岩として岐阜県南部に広く分布しています。

江陽中学校東側の石垣や北側の縁石、文化公園の機関車周りには、真鶴町の小松石(本小松石)が使われています。間知石という先の尖った形に加工し、石垣などに多量に利用されています。神奈川県内で現在採掘されている石材はこの小松石だけです。小松石には本小松石と新小松石とがあり、前者は真鶴町の西側(山側)に、後者は真鶴半島に分布する溶岩です。後から採掘された新小松石は、現在ではもうほとんどとれなくなっており、現在では本小松石が切り出されています。本小松石は、真鶴駅北西側の山麓を構成する箱根古期外輪山溶岩の内の1枚の溶岩で、厚さ40m以上ある、灰色緻密の複輝石安山岩です。この溶岩流は星ヶ山西方の標高830mの山から噴出したものといわれています。本小松石は目が細かく、墓石としてよく知られています。



平塚市美術館の内壁材に使われているイタリア産の石灰岩

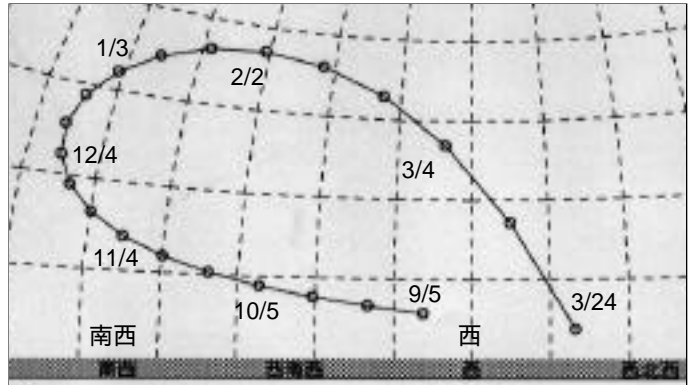
「よいの明星」

夕方西の空に金星が見られるようになりました。6月以降「よいの明星」の位置に来たものの、これまであまりめだちませんでした。10月下旬にはようやく日没30分後の高さが10°ほどになり、夕焼けの中にはっきり輝くことが多くなります。

今回金星が太陽の向こう側を通過して（外合といいます）夕方の空に回ったのは6月11日でした。もともと外合後の動きは遅く、太陽から離れるのに日数を要しますが、今回はようやく離れてきたころに軌道が南に傾く季節になったため、なかなか高度が上がらなかったのです。これから3月にかけてはずっと高く、夕方の空に君臨するでしょう。日没後30分後の位置の変化を図に示しました。

今回の金星の位置の変化のしかたは、実は1992年の冬の金星とそっくりになっています。金星の位置の変化は、五つのパターンを8年の周期で繰り返すのです。金星が「明け」と「よい」を繰り返す周期は584日で、これを5回繰り返すと2920日となり、ちょうど8年くらいになるためです。

今月のプラネタリウムは、美の女神ヴィーナスの英名を持つ金星の、美しい眺め方を紹介します。



よいの明星の位置（2000年9月～2001年3月・日没30分後）
StellaNavigator/AstroArts inc./ASCII inc.により作成

期間：10月7日（土）～12月3日（日）
投影日：土曜日、日曜日 11:00、14:00
観覧料：100円

寄贈品コーナーの展示

博物館実習生が作りました・・・・・・・・

船大工—道具と技術—

9月14日～10月29日

毎年、博物館では博物館実習生を9月の中旬に受け入れ、1週間の実習を行っています。今年は14大学から16名が参加しました。カリキュラムのメインは、博物館資料を使つての寄贈品コーナーの展示製作です。今年は民俗資料の中から船大工さんが使っていた道具を展示しました。一見、分かり易い道具ですが、中には船大工独特の道具があります。道具の種類や使い方などを、写真パネルや舟の模型をつかって分かり易く解説してあります。是非、四苦八苦して製作した実習生の力作をご覧ください。

（実習生の感想文から）・・・・・・・・

実習を終えた今思うことは、日頃、外側から見ていた博物館を内側から見ることで、そこにある苦労ややりがいを感じられたことは、とても貴重な経験であったということです。そして、展示製作を通して大勢の人間が協力していくことや限られた時間を有効に使うことの難しさを身を持って体験することが出来ました。私達は今後、どのような道を歩んでいくかはわかりません。しかし、この実習で学んだ多くのことは、その中で必ずや役立つであろうと確信しました。



完成した展示の前で（平成12年度博物館実習生）

- 展示見学の方に -

展示ガイド貸出しします。

展示物について、もっとくわしく知りたい！という方のために、館内で展示ガイドブックと解説書「相模川流域の自然と文化」をお貸しするサービスを始めました。無料でご利用になれます。受付までお申し出下さい。

また、展示解説ボランティアの会による解説も、メンバーが増えてますます充実しています。お好みのスタイルでじっくり展示をお楽しみ下さい。

博物館カレンダー

2000年10月

1	日	○ 自然観察会「秋の花と鳥」	弘法山
5	木	展示解説ボランティアの会	特研究室
6	金	古文書講読会	講堂
7	土	○ 考古学入門講座「集落」	講堂
		天体観察会「惑星」	屋上
		☆ 特別展「街の中の石材」 (～11月19日)	特展室
		☆ プラネタリウム「よいの明星」 (～12月3日)	プラネ室
8	日	地質調査会	科学室
12	木	石仏を調べる会	特研究室
13	金	古文書講読会	講堂
		◎ 星を見る会「満月」	屋上
14	土	◎ 漂着物を拾う会	虹ヶ浜
		地質調査会	野外
15	日	◎ ろばたばなしの会	展示室
		民俗探訪会「海宝寺のお十夜」	幸町
		○ みんなで調べよう「身近な林調べ」	科学室
18	水	裏打ちの会	科学室
		地質調査会	特研究室
19	木	展示解説ボランティアの会	特研究室
20	金	古文書講読会	講堂
21	土	○ 考古学入門講座「集落」	講堂
22	日	古代遺跡を探す会	野外
		相模川の生い立ちを探る会	野外
26	木	石仏を調べる会	南金目
27	金	古文書講読会	講堂
28	土	空襲と戦災を記録する会	特研究室
		◎ 特別展講演会「街の石材」	講堂
		◎ 特別展観察会「街の石材」	野外
29	日	○ みんなで調べよう「身近な林調べ」	野外

2000年11月

1	水	☆ 特別展「街の中の石材」 (～11月19日)	特展室
		☆ 寄贈品コーナー「丹沢の岩石」 (～11月29日)	展示室
2	木	展示解説ボランティアの会	特研究室
3	金	民俗探訪会「室生神社流鏑馬」	山北
4	土	○ 考古学入門講座「集落」	講堂
		○ 特別展見学会「小松石の採石場」	野外
5	日	地質調査会	野外
9	木	石仏を調べる会	特研究室
10	金	古文書講読会	講堂
		◎ 星を見る会「木星・土星」	屋上
11	土	◎ 漂着物を拾う会	虹ヶ浜
		地質調査会	特研究室
15	水	裏打ちの会	科学室
		地質調査会	特研究室
16	木	展示解説ボランティアの会	特研究室
17	金	古文書講読会	講堂
18	土	○ 考古学入門講座「集落」	講堂
		天体観察会「しし座流星群」	函南
19	日	◎ ろばたばなしの会	展示室
		相模川の生い立ちを探る会	野外
		天体観察会「しし座流星群」	函南
24	金	古文書講読会	講堂
25	土	空襲と戦災を記録する会	特研究室
26	日	○ 体験学習「わらそうりを作ろう」	屋外
		古代遺跡を探す会	野外
		○ こども観察会「落ち葉の観察」	浅間町

○秋期特別展

「街の中の石材－地球からの贈り物－」

街のあちこちで使われている石材に、世界や私たちの地域の誕生の歴史を探ります。

(表紙ページをごらんください)

会場：平塚市博物館特別展示室 入場無料

会期：10月7日(土)～11月19日(日)

☆寄贈品コーナー「船大工－道具と技術－」

博物館実習生が製作した展示です。詳しくは3ページをごらんください。

期間：10月29日(日)まで

◎星を見る会「満月を見よう」

望遠鏡で月や二重星を眺めます。

日時：10月13日(金) 19時～20時30分

場所：博物館科学教室・屋上

参加自由

◎漂着物を拾う会

日時：10月14日(土) 9時30分～11時

場所：虹ヶ浜海岸

申込：自由参加ですが、初めて参加される方は往復ハガキで申し込んでください。集合場所等案内をお送りします。

◎ろばたばなし

展示室民家で相模地方の伝説と昔話を聞きますか？

日時：10月15日(日) 13時30分、15時

場所：1階展示室民家 参加自由

☆：展示(無料)・プラネタリウム(観覧料) ○：申込制 ◎：自由参加 無印：年間会員制

あなたと博物館 25巻 7号 通算285号 発行 平塚市博物館 2800

〒254-0041 平塚市浅間町12-41 TEL:0463-33-5111 FAX:0463-31-3949

E-Mail: muse@city.hiratsuka.kanagawa.jp ホームページ: http://city.hiratsuka.kanagawa.jp/museum/